

野辺地西高、五戸移転で記者会見



記者会見で今後の方針などを語る
法官新一理事長(右)と若宮佳一
五戸町長(左) 同日役場

五戸町長 旧校舎利活用は最重要課題

光星学院 歴史と伝統大切に移転事業

八戸学院野辺地西高の旧五戸高への移転について、五戸町で29日
開いた記者会見で、若宮佳一町長は「町は旧五戸高の利活用を最重要
課題として調査研究してきた。町内に移転してくる高校をできる限り
支援する」と意義を強調。光星学院の法官新一理事長は「野辺地町で
50年以上お世話になった歴史と伝統を大切にしながら、五戸に移るま
での2年間で(学校の体制について)協議、検討を重ねていく」と移
転事業に取り組む方針を示した。主なやりとりは次の通り。

【1次】に本記

一旧五戸高の老朽化の状
況は。
若宮氏 何度か視察し、
改修工事が行われているこ

一生徒はとう集める。
法官氏 サッカー部は青
森県全体から生徒が集まっ
ており、五戸でも核になる
だろう。学科などの内容は
これから協議する。
一町のサポートは。
若宮氏 学校運営の詳細
が決まっていく中で、支援

とを確認した。使い勝手を
良くする必要があるので改
修して、光星学院に貸し出
せるようにしたい。
一今後の準備はどう進め
る。
法官氏 近期中に準備委
員会を編成し、通学やカリ
キュラム、生徒募集など課
題全般を検討する。今後の
五戸町との関係も考えた体
制とし、課題解決へ向けて
頑張りたい。
(取材班)

サッカー部「生徒募集の核」 寮施設など環境整備協議へ

法官新一理事長は記者会
見で、移転に伴う生徒の募
集方針について、野辺地西
高サッカー部を挙げて「五
戸でも生徒募集の核にな
る」と述べ、今後も部の体
制を維持しながら広域的に
集める方針を示した。
サッカー部は全国高校選
手権青森県大会決勝に20

一7年度から7年連続で進
出。近年は選手権優勝4度
の青森山田高と接戦を演じ
る強豪校となっている。
光星学院によると、本年
度の部員は78人。八戸市や
津軽地方など県内各地から
集まり、県外出身者も12人
いる。現在、部員のうち32
人が野辺地町の学校敷地内

にある寮で生活しているとい
う。
会見で、法官氏は学校移
転後の生徒募集が「大きな
課題だ」とした上で、「サ
ッカー部は野辺地西高で培
ってきた財産であり、核に
なる」と重要性を強調。
一方、旧五戸高には寮施
設がなく、遠方の生徒を受

が必要な部分をまとめる。
生徒たちが『この地で学ん
で良かった』と思える施設
にしたい。
一サッカー部の運営体制
は。
法官氏 現状の部員は多
くが高宿生活をしており、
五戸でも同じ環境を整えた
い。(選手層の) 全国的な
拡大を目指したいという思
いもある。

一今後の準備はどう進め
る。
法官氏 近期中に準備委
員会を編成し、通学やカリ
キュラム、生徒募集など課
題全般を検討する。今後の
五戸町との関係も考えた体
制とし、課題解決へ向けて
頑張りたい。
(取材班)

若宮佳一町長は「野辺地
西高と五戸のサッカーの歴
史を融合させてPRし、入
つてみたいと思う学校に
できれば」と思いを語り、「で
きることを考えて最大限サ
ポートしたい」と活動を後
押しする姿勢を見せた。
(上條智恵)

野辺地西高が移転する構想
にも触れ、「高校中心にま
ちづくりができるのは非常
に大きい」と歓迎した。
高校再編などをテーマに
した風張知子教育長や教育
委員5人との意見交換で述
べた。教育委員からも「誰
もがこれ以上、学校をなく
したいとは思っていないは
ずだ」との声が出た。
この日は、高校再編の次
期計画策定に向けた県教委
の魅力づくり検討会議や、
知事直轄の教育改革有識者
会議の取り組み状況につい
て情報共有した。
(加藤弘也)